

令和元年度第2回 感染症発生動向調査部会

令和元年5月22日

月番：澤田 明

1 前月の感染症発生動向について（2019年第14週～第17週・4月）

<全数把握対象疾患>

- 結核は43例あり、報告数は増加した。年齢別分布では70歳以上が6割弱占める
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告はなかった
- 五類感染症
 - ✓ 侵襲性肺炎球菌感染症および梅毒は、毎週コンスタントに報告された
 - ✓ 梅毒は、男性は30-60歳代に、女性では昨年と異なり低年齢層(30歳以下)に集中
 - ✓ 百日咳は、前年と比較して約1.5倍の報告数がある
 - ✓ 風しん、麻しん報告例はなかった

<定点把握対象疾患>

- インフルエンザは減少してはいるものの、依然相当数の報告例がある。収束しているとは言い難い。地区別では岐阜地区に多い
- 感染性胃腸炎は、相変わらず毎週コンスタントに報告されている
- 伝染性紅斑は、症例数は多くはないが、前年同期と比較すると2235.5%と多くなっている（前年比では993.6%）

2 検討すべき課題

- 風しんについて
 - ✓ 県内で風しん患者が第18週に2例、第19週に1例報告された。
 - ✓ 全国的には首都圏を中心に流行が続いている。
 - ✓ 第17週には東京都で先天性風しん症候群が1例報告された(今年2例目)。
- 梅毒について
 - ✓ 女性における症例の低年齢化?

3 情報提供すべき事項

- 風しんについて
 - ✓ 県内および全国の患者発生状況、成人男性の定期接種に関する情報
- インフルエンザについて
 - ✓ 県内の患者発生状況
- 伝染性紅斑について
 - ✓ 県内および全国の患者発生状況
- 梅毒について
 - ✓ 県内の患者発生状況、年齢別分布

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・特になし

<検討結果>